

# めぐみ厚生センター恵友会 会報

第 290号

めぐみ厚生センター恵友会

法人本部	0952-25-2797
めぐみ園	0952-34-7722
富士学園	0952-63-0107
ウイズ富士	0952-51-0063

発行人 副島 勉

郵便振替 事務局 めぐみ厚生センター恵友会 口座番号： 01770-6-12389  
〒840-2223 佐賀市東与賀町大字飯盛1584 (めぐみ園内) : tel 0952-34-7722

特別支援教育に携わるようになって5年。右も左も分からなかった私が、いろいろな生徒と関わりながら、一緒に学び、経験していく中で、少しずつではあるが「特別支援教育とは」「障がいとは」ということが分かってきた。特に進路主事という仕事をしている関係上、障がいを持つ生徒の卒業後の生活、進路ということが常に頭の中にある状態である。

今年も付属特別支援学校高等部を四名の生徒が卒業した。(八名在籍していたが、途中で進路が確定した生徒が四名いたため。)一人は生活介護事業所へ、一人は継続B型事業所へ、残り二人は一般就労という進路を歩んでいる。

近年、社会制度が変わり、障がいを持つ人を取り巻く環境は少しずつ改善されているように雇用障害者数は全国で十年連続増加しているという結果が出ている。それは、ハローワークをはじめ障害者就業・生活支援センターなどの様々な就労機関が増えたことやジョブコーチなどの定着支援が充実してきたこと、就労を手助けする様々な援助制度ができたことなどが要因であると思うが、障がいを持つ生徒の夢や願を叶えることに繋がるいい状況だと感じている。一般就労をした二人のうち、一人は「めぐみ園」の食堂、厨房に就職し生き生きと働いている。

今年、卒業生の〇君がめぐみ園に就職できた経緯には、色々な人の関わりがある。〇君は、高等部に入学した頃は自分に自信がなく、知らない人と話をすることや人前で声を出して喋ることが苦手で、首を縦に振るか横に振るかで意思を伝えていた。会話が出来るのはある特定の職員とだけで、二年生になってからも同じような状態だった。高等部三年になってもやはり自分に自信が持てないようだったので、このままでは〇君が夢に描いていた一般就労は厳しいのかなという感じだったが、いよいよ社会人になるという意識を持たせたい時に、うまいタイミングで「めぐみ園」の実習のチャンスを得た。この実習の機会を得た経緯には、ある裏話がある。

〇君の一学年先輩が三年生の時、リサイクル工場で実習をした際、通勤に使用する自転車をめぐみ園の駐輪場に置かせてもらっていた。朝と夕方、その先輩の気持ちのいい挨拶や「仕事はきついけど頑張っています」という前向きな発言を聞くうちに、森永施設長はじめ、めぐみ園のスタッフの人たちも、障害者施設の中でも障がいを持った人が就労するのは可能なのではないだろうか、という思い

になられ、まずは実習生を受け入れてみようということになったようである。先輩の頑張る姿が〇君の就職を後押ししてくれたのである。

まずは、六月に三週間。夏休みに二週間。十月に四週間。冬休みに一週間と実習に入り、その都度いろいろな課題を克服し、めぐみ園の方に就労に向けての評価してもらいながら、三月の卒業後に〇君は見事就職するという夢を叶えた。

近年、キャリア教育が唱えられるようになり「夢や願いを持ち、社会の中で役割を果たしながら、生き生きと自分らしく生きていく」こと、その実現に向けての教育が求められている。この〇君の卒業後の姿はまさに「自分らしく生き生きと働く生活を実現している」ものだと感じさせられている。それは、本人の頑張りと、家族の支え、めぐみ園の理解と支援があったからだと思うが、スタッフの方の〇君を「めぐみ園で育てていこう」という温かい関わりが一番だったのではと考える。障がいを持った人を理解する・環境を整える・仕事を組み立てる・定着を図るといった連の障がい者雇用の流れを丁寧に実践されているめぐみ園スタッフの皆様と同様、私も〇君の一助になればと考えている。



## 「卒業生の進路」

佐賀大学付属特別支援学校  
高等部 進路指導部 主事  
水落 剛宏



